



平成22年3月5日
中部地方整備局

平成20年度路面下空洞調査業務(中部技術事務所発注)の検証について

1. 概要

中部技術事務所で平成20年度に業務発注を行った「平成20年度路面下空洞調査業務」の業務内容について検証を行いました。

検証方法は、平成20年度に国道1号などにおいて実施した路面下空洞調査結果について、信号波形の確認など空洞の可能性のある波形に関して判定を行いました。

検証結果は、次のとおりです。

- ・報告すべき「空洞の可能性のある信号波形」が未報告の箇所：69箇所
- ・報告すべき「空洞の可能性のある信号波形」が未抽出の箇所：16箇所

検証方法や結果の詳細については別紙のとおりです。

2. 配布先

中部地方整備局記者クラブ

静岡県政記者クラブ、静岡市記者クラブ

3. 解禁

指定なし

4. 問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 道路部 道路管理課 課長 松田 正尚

TEL. 052-953-8176

国土交通省 中部地方整備局 中部技術事務所 副所長 白木 善吾

TEL. 052-723-5701

1. 検証の方法

- 平成20年度に行った国道1号などの路面下空洞調査について、探査車で捉えた信号波形を再整理し、国土交通省へ報告がされなかった信号（信号の未報告箇所）が「空洞の可能性のある波形」であったかどうかの判定を行いました。
- 当該業務で異常な信号波形として判断されなかったもののうち、平成21年度に国道1号の現地で空洞が確認された箇所において、当該業務で採取した信号が「空洞の可能性のある波形」かどうかの判定を行いました。

2. 検証の結果

- 国道1号の路面下空洞探査車で捉えた信号波形のうち、報告されなかった69箇所は、その全てが「空洞の可能性のある波形」と判断しました。
- 当該業務で異常な信号波形として判断されなかったもののうち、平成21年度に国道1号の現地において空洞が確認された16箇所について、当該業務で採取した信号を検証したところ、全てが「空洞の可能性のある波形」と判断しました。

（見逃しの例→別紙－ 2 参照）

3. 検証の総括

2. のとおり、探査車による信号の分析の結果で未報告や見逃しが存在するとの結論に至り、業務を粗雑にしたと判断しました。

この結果を受け、「指名停止5ヶ月」の措置が財団法人道路保全技術センターへ出されたものです。

4. 今後の対応

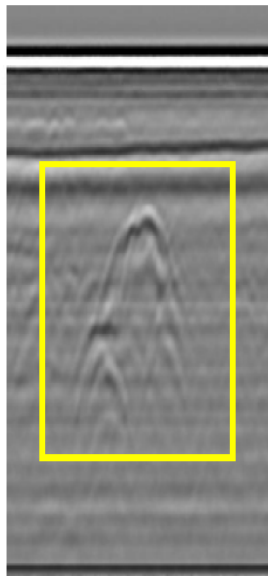
平成20年度に行った路面下空洞調査業務は、上記のとおり業務を粗雑にしたものであり、かかる事態を鑑み、路面の陥没事故が無いよう、路面の安全性の確保を図るため、下記の対応を行ってまいります。

- 平成20年度業務の対象区間については、日常の道路パトロールで、路面変状・陥没の前兆を探知するよう努めます。
- パトロールで陥没の可能性のある等の路面変状が見つければ、直ちに路面下空洞探査などの詳細調査を実施し、緊急的対応を行います。
- 平成22年度路面下空洞調査業務を早期に発注し、陥没未然防止に努めます。

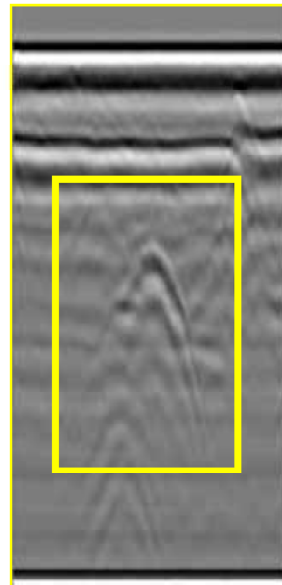
探査車で捉えて未報告や未抽出であった信号見落としの例

例) 異常な信号箇所のうち、空洞が懸念される箇所として報告されなかったもの

信号の報告なし



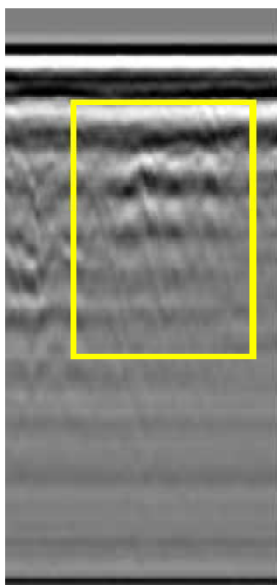
No. 37



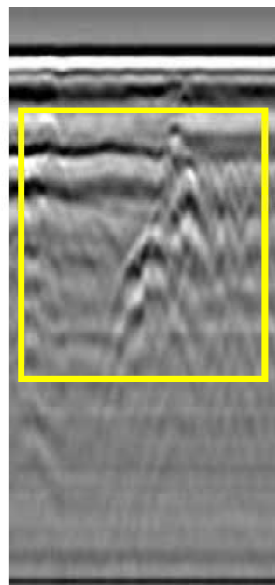
No. 39

例) 異常な信号箇所として抽出されず報告されなかったもの

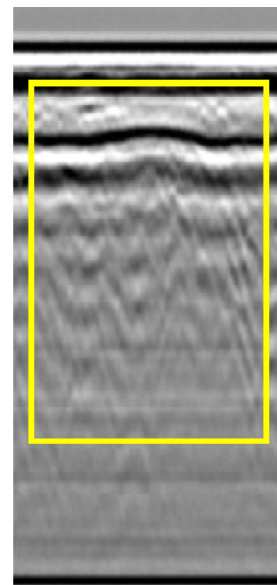
信号の抽出なし



No. 22



No. 30



No. 35